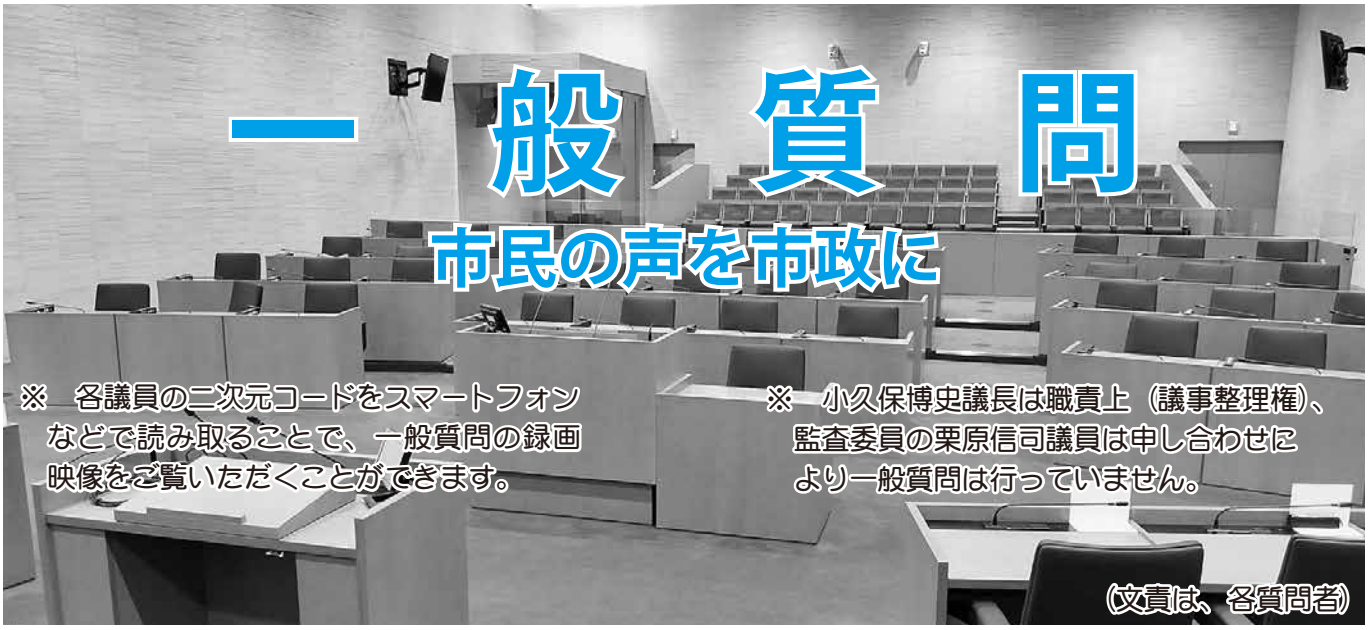

一般質問

市民の声を市政に

※　各議員の二次元コードをスマートフォンなどで読み取ることで、一般質問の録画映像をご覧いただくことができます。

※　小久保博史議長は職責上（議事整理権）、監査委員の栗原信司議員は申し合わせにより一般質問は行っていません。

（文責は、各質問者）

一般質問に26人が登壇

地域の基幹病院としての市立医療センターの役割について

鈴木　一利　議員

平成28年7月に春日部市立病院から市立医療センターに新築移転され、来年は新築移転から10年の佳節を迎えます。

そこで、以下お伺いします。

①会計窓口での待ち時間の緩和に向けた取り組みについて。

②災害時連携病院としての医療的ケア児の受け入れや、受け入れの準備を整えていくことについての考え。

③今後の展望について。

○病院事務部長

①マイナンバーカードの活用による手続きの簡素化を図るとともに、無料Ｗｉ－Ｆｉを整備するなど、体感的な待ち時間を低減させる取り組みも進めています。

②災害時は、医療的ケア児も含めた災害弱者に寄り添った対応が求められており、医療的ケア児の受け入れについては、他の医療機関における対応や課題の調査研究を進め、受け入れの準備については、国や県の動向を注視し、必要な検討を重ねていきたいと考えています。

○病院事業管理者

③本センターは、これまで公立病院としての役割を認識し、機能の強化を図ってきました。今後も次の10年に向け、社会構造の変化や医療需要の状況を見据え、ソフトとハードの両面から地域の基幹病院として必要な医療の提供に努めていきたいと考えています。

このほか

○春日部市の子育て支援について（産前産後支援のさらなる充実を）

女性の健康支援について

藤原　智子　議員

女性はライフステージごとに心や体の変化があり、その中で、いくつもの役割を担いながら日々を過ごしています。特に更年期には、体調の揺らぎがある中でも、周囲に気づかれにくく、本人がひとりで抱え込んでしまうことも少なくありません。

本市では、ライフステージに応じたさまざまな施策が実施されていますが、更年期世代の女性の健康支援は、十分ではない印象を受けます。

市民に対して行っている更年期を中心とした女性の健康支援の取り組み内容と、市民の関心や理解を高めるために「女性の健康週間」に合わせて何ができるかを伺います。

○健康保険部長

女性に特化した取り組みは2点あります。1点目は、骨密度測定会です。年12回保健センターなどで実施しており、そのうちの1回を20歳から60歳の若年女性のための測定会としています。2点目は、女性のからだ相談、女性カウンセリング相談の実施です。

女性の健康週間に合わせた取り組みとして、若年女性のための骨密度測定会をこれまで10月頃実施していましたが、今年度から女性の健康週間である3月8日に実施することとしたところです。

このほか

○放課後児童クラブの現状について

○全ての方が参加できる「長寿を祝う会」の在り方について

学校プールと民間施設について

山崎　進　議員

学校プール34施設のうち築30年以上経過している割合は９割以上で、老朽化によって修繕改修が必要であり、現在プールが使用できない学校は、民間プールを使用しています。

今後においても既存のプールの修繕改修ではなく、学校間での共用化を図るということで、八木崎小学校に一般の方も使用できる温水プールを整備する計画ですが、進捗状況と今後の計画を伺います。

また、学校間の共用ということなら、各地区に整備することが望ましいですが、維持コストなどの課題があります。思い切って学校の敷地とは別に一般市民も利用できるプールをＵＲ都市機構や民間と共同で武里団地に整備してはどうでしょうか。

○学校教育部長

現在は、八木崎小学校の校地内に温水プールの設置場所や大きさ、更衣室などの必要な設備の計画、施設整備の基本計画の作成を進めているところです。開設については、令和９年度中の運用開始を目指しています。

○総合政策部長

武里団地の跡地活用については、管理するＵＲ都市機構に伺ったところ、原則公募による有償での活用が検討されており、地域および団地ごとの特性に応じて多様な活用を進めているとのことです。ＵＲ都市機構にはプール整備について情報提供していきます。

このほか

○交通安全について

温水プール設備（イメージ）

まるで売春街の客引き監視員が設置が急務

酒谷　和秀　議員

夜の春日部駅西口交差点付近はまるで売春街のような異様な雰囲気になっています。アジア系の外国人女性たちがここを通る男性に手当たり次第、下品でいやらしい客引きを行っています。実際にこの付近では過去に売春や違法風俗の営業が摘発された事件も発生しています。驚くべきことに、このような状況はもう20年以上も続いています。

しかし、本市はこの状況をずっと放置したままです。他の自治体は繁華街に客引き監視員を設置してまちの治安を守っています。

本市もこの長年にわたる恥ずべき状況を解決するために、客引き監視員を設置する考えはありませんか？

○市長

犯罪抑止の取り組みは、市民生活において大変重要であると考えています。

また、議員がご指摘の執拗な客引きは、迷惑行為であると考えています。

引き続き春日部警察署と連携するとともに、効果的な方法について検討してみたいと思います。

浸水被害軽減対策、地域計画の策定を

今尾　安徳　議員

国の登録事業である１００ミリ安心プラン。県内初の登録となりましたが、今年度が最終年度となります。この事業の完了によって見込まれる浸水被害軽減の効果と過去の豪雨災害と比較した際の軽減の割合について伺います。

また、市内の局所的な浸水被害の軽減に向けて、地元住民の意見を聞きながら、今後の計画策定を行っていく必要があるのではないかと思いますが、市長の考えを伺います。

○建設部長

平成20年８月28日の対象降雨最大時間雨量89ミリメートルの降雨に対して、床上浸水被害の解消と浸水エリアの縮小が図られることになります。

また、軽減割合は、令和５年６月２日から３日にかけての台風第２号による大雨の被害状況で比較すると、床上浸水の件数は市内全域で10件、対象区域で５件となっており、割合は５割となります。

○市長

治水対策については、流域全体で共通意識を持ち、国、埼玉県、流域市町が連携し対策を実施していくことが重要です。現在、協議を重ねながら中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクトを形成し、本プロジェクトを今後確実に推進していくとともに、地元の声もお聞きしながら事業を推進していきたいと考えています。

このほか

○学校教育におけるこどもの権利擁護に対する対応について

春日部藤まつりの総括について

榛野　博　議員

最近はまちなかで本市をはじめ、団体や個人の方がにぎわいをつくるよう、さまざまなイベントを行っています。多くの市民が思い思いのスタイルで楽しまれている光景を目にすることができます。今回春日部市と庄和町が合併して20周年ということで例年以上のにぎわいを目指し、企画を工夫し、さらに会場の設営にも注力されたと思います。

今回の藤まつりでは、市民間の交流、インバウンドを含めた観光、本市のＰＲも考えられたと思いますが、従来に比べ、趣向や会場設営などに工夫した内容はどのようなことでしょうか。併せて身体的ハンディを抱えた方に対する配慮はどのような対策を講じられたのか伺います。

○市民生活部長

今回、特に注力し従来より趣向を凝らした内容としては、市制施行20周年記念として、『クレヨンしんちゃん』の野原一家の皆さんにパレードとステージイベントに参加していただいたところです。

また、障がいのある方に対する配慮については、パンフレットに多目的トイレの表示を行っているほか、出店者のうち、車椅子利用者が多い障がい者団体について、出店準備などで移動の負担がなるべくかからないような場所に出店いただくよう配慮しているところです。

このほか

○地域の安心安全対策について

交通空白地域の課題と多様な移動手段・広域交通の可能性について

中村　貴彰　議員

本市ではバス路線の廃止が相次ぎ、内牧地域や増戸地域をはじめ交通空白地が広がっています。特に買い物や通院に不安を感じる高齢者にとって、移動は日常を支える大切な手段です。そうした声に耳を傾け、私は三輪自動車（トゥクトゥク）など多様な移動手段の導入を提案しました。

また、北春日部駅と白岡駅を結ぶ、バス路線の復活に向けて白岡市との協力の必要性に言及し、ＪＲへの乗り継ぎ確保についても声を上げました。

さらに、令和８年３月完成予定の上野長宮線を生かした周辺地域の移動改善については、さいたま市岩槻区との連携も含め、広域的な視点から強く要望しました。

これらを踏まえ、市民の暮らしに希望を届ける移動手段の再構築に向けて、市長の見解を伺います。

○市長

誰もが自由で安全に移動できる持続可能なまちの実現には、公共交通が果たす役割は重要なものであると考えています。今後の公共交通の空白地域は、地域の方々との意見交換、ご協力をいただきながら、需要や実情を勘案し、持続可能なよりよい施策を考えていきたいと思います。

このほか

○カイロ・保冷剤の学校回収と地域内再利用の教育的活用について

○若者を巻き込んだＳＮＳ戦略と親善大使の再構築について

公園や道路樹木の管理について

大里　昇　議員

公園や道路に植えられている樹木は、都市の景観の形成や市民の癒しの空間を構成する大切な資産であり、市民の生活環境に密接に関わっていると思います。また、樹木を管理する上で、さまざまな苦労をしていると察します。

そこで、現状について、本市が管理している樹木のうち、中木や高木の本数は、公園と道路でどのくらいあって、年間の維持管理費用は、どれくらいかかっているのか、また、その維持管理の内容、剪定や消毒などの回数はどれくらい行っているのか伺います。

○建設部長

本市で管理している樹木の本数は、公園では高木が約７５００本、道路では高木が約３１００本、中木が約５００本あり、公園と道路を合わせると約１万１１００本の樹木の管理を行っています。

樹木の維持管理に要した費用は、令和６年度で公園が約１億２０００万円、道路が約７５００万円、合わせると約１億９５００万円です。

維持管理の内容は、公園では地域を10工区に、道路では５工区に分けて業務委託し、年１回の定期的な剪定や市民要望による剪定を行っています。

このほか、桜などの害虫が多い樹木に関しては、年１回から２回の薬剤散布を実施しています。

このほか

○シルバー人材センターについて

浜川戸公園の高木

小学生の夏休みの居場所づくりについて

荒木　洋美　議員

最近の夏休み期間は、猛暑により熱中症警戒アラートが発令される日数が増えて、こどもが安全に外遊びするのが難しくなってきています。

千代田区では、熱中症対策の１つとして外で遊びたくても遊べないこどもたちに、冷房設備が整っている体育館を夏休みに無料で開放しています。本市でも夏休み期間中、冷房完備のある体育館を遊び場として開放していただきたいと思いますが、本市での夏休みの居場所として、小学校体育館の活用についてお伺いします。

○こども未来部長

現在、市内23校中10校において空調設備が整備されています。この整備に伴い、放課後児童クラブと放課後子ども教室においては、熱中症対策も含めた体育館の利用を令和７年度から予定しているところです。

放課後児童クラブでは、夏休み期間中についての利用を考えており、使用の頻度については、週２回、１日２時間程度の利用を予定しているところです。

放課後子ども教室においては、暑い時期が予想される６月から９月頃の利用を考えており、使用頻度は学校ごとに異なりますが、全10校で、16回程度の利用を予定しているところです。

このほか

○医療的ケア児支援について

○居住支援協議会伴走支援プロジェクトについて

放課後子ども教室の様子

古隅田川拡張に伴う道路について

金子　進　議員

古隅田川は、下流のほうから川幅拡張工事が行われており、現在、栄町地内のＡ21号橋の架け替え工事が行われています。そして、上流に向かって栄町から内牧地区に計画が進んできています。

この古隅田川に沿って、栄町から埼葛斎場組合に向かって計画道路があり、本市では栄町から向かう市道１－５号線と南栄町工業団地側の市道５－１号線の２路線を検討しているようです。

市道１－５号線とすれば岩槻からの道路を直進することができて便利となりますが、市道５－１号線とすると埼葛斎場組合前の丁字路で岩槻から来る道路がクランクの状態となり大変不便となります。

また、県は河川拡幅工事に伴って幅４メートルの維持管理用道路を栄町側に造ります。この道路を利用し、計画道路を造れば、経費的にも効果があると思いますので、ぜひ、市道１－５号線を建設してもらうことを要望します。

○建設部長

市道１－５号線を整備するに当たっては、市道３－２０４号線沿いの住宅街に相当数の交通量の増加が見込まれるため、道路の安全性の確保などが懸念されること、また古隅田川に大きな排水路が接続されていることで、新たな橋梁も整備しなければならないことから整備が難しいものと考えています。

このほか

○内牧黒沼公園について

本市の観光客誘致について

平沢　一博　議員

近年、首都圏外郭放水路などの存在により外国人観光客を中心に、観光客が着実に増加しています。さらに観光客を呼び込むために、ＹｏｕＴｕｂｅによるＰＲは、視覚的訴求力が高く、臨場感や雰囲気を伝えることが可能であり、観光誘致において強力な武器となります。本市ではＹｏｕＴｕｂｅをどのように活用しているのか伺います。また、全国の自治体で業務負担が少なく、広告のジャンルも選べるため、公式チャンネルのイメージを損なうリスクは低く、新たな自主財源の確保につながるとのことでＹｏｕＴｕｂｅ収益化の動きが広がっています。本市公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルの収益化について、実現可能性を伺います。

○総合政策部長

ＹｏｕＴｕｂｅの活用については、市公式チャンネル、かすかべ動画チャンネルを運用しています。動画で多くの情報を伝えられるという特徴を生かし、大凧あげ祭りなど市のイベントや桜並木を撮影した観光スポットなどの紹介を配信しています。収益化については、広告収益を得るためには運営者側が設定した条件を満たすことが必要となっていますが、再生時間が、条件に満たない状況です。収益化するには、多くの再生回数が求められることから、今後もより多くの人の目に留まるよう工夫を重ねていきます。

このほか

○ＪＲ誘致について